

町政2期8年を町長自身はどう評価するか

答 公約は達成できたと自負する



照屋 仁士 議員



問 町政2期8年の成果を町長自身はどう評価しているか。

町長 公約は達成できたと自負する。

問 私自身も議案審議、提案を通して、その一助を果たしてきた。町政が引き継がれても、与野党にこだわらず、提案、指摘等には丁寧に対応してほしいが町長はどう考えるか。

町長 私も町議会をリスベクトしており、今後も丁寧に対応すべきと考える。

問 総務部における課題の一つに、自治会加入率をはじめ、自治会支援員の配置、行政懇談会の改善、事務委託の増額など、コミュニティの支援についてはどうか。

総務課長 議員ご指摘のとおり、引き続き取り組みます。

問 まちづくりの根幹である人口について、統計や調査、税収、幸福度など、様々な視

点でも今後も取組を進め、人口5万人を達成し、南風原市誕生へ向けて取り組むべきと考えるがどうか。

企画財政課長 議員ご指摘のとおり、人口への対応は重要な課題である。

問 経済建設部における津嘉山北土地区画整理事業について、1993年(平成5年)の都市計画決定以降、9回の計画の変更を受け、既に33年を経過している。一日も早い完了を目指してほしいがどうか。

経済建設部長 事業推進、一刻も早く終わるよう努める。

問 53億円という巨費を投じる根拠に疑問が寄せられている。計画の遅れもその一因である。広く町民の理解を得る努力を重ね、今後は計画を見直すべきだと考えるがどうか。

経済建設部長 方針は変わらない。



町長 赤嶺 正之

問 町長は国政や県政選挙において、国政与党、政党、候補者を応援され、理由として、南風原町の町益、支援を受けるためと認識をする。否定はしないが、解釈をすると、国政与党を応援しなければ、必要な支援は受けられない。また、南風原町にとっては不利益が生ずるといった考えなのか。

町長 町益を優先するには、政権与党を応援する姿勢が必須である。